

第2回「消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議」
成年向け教材開発分科会
議事録

消費者庁新未来創造戦略本部

第2回「消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議」
成年向け教材開発分科会

1. 日 時：令和3年11月1日（月） 15:00～17:00
2. 場 所：消費者庁新未来創造戦略本部 会議室 （ウェブ会議：オンライン参加可）
3. 議 題
 - ・デジタル教材（成年向け教材）の制作状況について
 - ・デジタル教材の実証計画について
 - ・デジタル教材の実証検証について
4. 資 料
 - ・資料1 消費者保護のための啓発用デジタル教材を活用した調査実証事業_制作状況
報告書及び実証計画
 - ・資料2 令和3年度有識者会議 分科会スケジュール(案)
 - ・参考資料1 教材へのご指摘・ご意見等のまとめ（非公表）
5. 出席者
 - (委員)
坂倉委員（座長）、阿部委員、坂田委員、立石委員、
田中委員、坪田委員、阪東委員

 - (オブザーバー)
消費者庁 消費者教育推進課
文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課
徳島県 消費者政策課

 - (事務局)
消費者庁新未来創造戦略本部（消費者政策課）
NTTラーニングシステムズ

発言者	内容
1. 開会	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 事務局より開会。はじめに、消費者庁新未来創造戦略本部、日下部英紀（くさかべ ひでき）審議官からご挨拶をお願いします。
日下部審議官	<ul style="list-style-type: none"> この度は本分科会を開催するに当たり、ご挨拶申し上げます。消費者庁としては、成年向けと未成年向け、各世代を対象とした教材を開発している状況ではあるが、この成年向け教材開発にも大変期待している。当庁においてはこれまで、「弱い消費者対強い事業者」に対し、「法律、相談」といったものを充実させてきたが、近年は教育の大事さを重視している。「若年者教育、社会人教育」いずれも重要な分野である。そうした状況の中で、成年向け教材について本分科会でしっかり議論が行えるというのは非常に有意義であると考えている。委員の皆様におかれましては、有益な議論を数多くしていただければ幸いである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 以後、本会議の進行は坂倉座長にお願い申し上げます。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 座長の坂倉が司会を務めさせていただく。皆様、本日は、第2回「消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議」成年向け教材開発分科会にご参加をいただきお礼を申し上げます。また、消費者庁新未来創造戦略本部の日下部審議官におかれましては、冒頭にご挨拶をいただき、重ねてお礼を申し上げます。本分科会は2時間の予定で行う。まずは配布資料について、事務局から確認・説明をお願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料確認。
2. デジタル教材（成年向け教材）の制作状況について	
坂倉座長	<p>資料1（消費者保護のための啓発用デジタル教材を活用した調査実証事業）の制作状況について説明を行った後、意見交換の時間を設ける。</p> <p>■資料1の制作状況について事務局より説明。</p>
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様、何か意見はあるか。
立石委員	<ul style="list-style-type: none"> クイズについて、どの問題を間違えたか後から確認することは可能なのか。間違えた問題を全て覚えておくのは難しいと思う。また、今後そのような機能を実装する予定はあるか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 立石委員から、間違えた問題を後から確認できるのかという質問があった。事務局、いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 回答いただいた問題はその都度、正解か不正解かご確認いただける仕様になっており、再チャレンジも繰り返し可能である。今回制作できる範囲ということで、こういった仕様となっている。

発言者	内容
立石委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の皆様、何か意見はあるか。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ クイズにタイマー設定があるようだが、それよりも現在何問目で残りの問題数が何問なのか分かるようになっていた方が良いと思う。早く回答させることよりも、理解させる事の方が重要である。またインターフェースは設問の「A, B, C, D」という表示で決定と考えてよいのか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪東委員から2点ご質問をいただいた。 1点目は、現在はクイズにタイマーが実装されているが、残り何問あるかなど現在地が分かるような仕様になっているのか。 2点目は、インターフェースについて、設問の構成が「A, B, C, D」の状態になるのか。 以上のご質問について事務局、いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在地については、タイマーが動いている横に小さく「1/15」という表示があり、15問中の1問目という意味を表している。インターフェースについては、当初検討の段階から「A, B, C, D」の4択で進めているため、基本的にこの形に沿っていきたい。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4問の並びは問題ないと思うが、ユーザがどこをクリックすればよいのか分かりづらい。現状では、解答に色と線が入っているのみである。もう少しボタンのようなデザインになっているとタップしやすく良いと思う。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答ボタンをもう少し分かりやすくというご指摘であった。事務局側、検討の余地はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討させていただく。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪東委員からご指摘のあった、現在が何問目かという表記についてだが、私は、ずいぶん小さいように感じるが。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私もそう思っている。タイマーに視点が集まるため、ユーザは焦ってしまうのではないかと思う。全体の配置等の見直しについてもご検討いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の皆様、何か意見はあるか。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先日、確認している設問は2問形式で拝見していたが、本日の説明では15問という形になっているため、組み立てが飲み込めない。テーマごとで15問という設定で、動画の研修とクイズを行うというフローで間違いないか。

発言者	内容
坂倉座長	<p>また見た目として、ステータスを表示しているのか、動作を誘導するのか、はっきり判別できるようにすることが必要かと思う。 最後に、管理機能のID発行という点についても確認したい。個別のIDが分からなくなった場合、IDの再発行など、管理するために必要な負担感も研修を行う企業側としては知りたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 坂田委員から3点ご質問をいただいた。 1点目は、全体のクイズの構成である。我々委員がメールで確認していたものでは1つのテーマで2問のクイズがあるという認識であったが、今回の説明ではなぜ15問という構成になっているのか。 2点目は、ステータスのご説明なのか、動作のご説明なのかを表示をはっきりする必要があるのではないか。 3点目は、管理機能のID発行について、もう少し詳しく説明をしていただけないか。 以上のご質問について事務局、いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 1点目の件について、eラーニングの中に搭載するクイズは2問になる。例として、5つのテーマのうち「契約の取引」という動画を見た後に、eラーニングの中で解くクイズは2問である。このように、テーマごとにクイズが2問ずつ入っている。先般の照会は、eラーニングの対象が成年向け研修教材となっていることから、委員の皆様へeラーニングの流れと、テーマごとの問題数が2問でよいかという点についてご意見をいただいたものである。2問以上は複雑になってくるとも考慮して制作している。 アプリの中でご紹介した15問のクイズは単独のアプリとしても利用できるものである。eラーニングとは別に、高校生でも成年向けでも使用できる「契約に関する15問のクイズ」というアプリがあるということである。なお、各コンテンツの名称については今後変更する予定であるので、委員の皆様のご意見を賜りたい。 2点目の件については、内部で検討させていただき、対応できる部分を確認させていただく。 3点目の件については、部屋に入るための紐づけとして「ルームID」というのを発行するということである。内容としましては、管理者や企業の担当者の方が「ルームID」を発行し、作成された番号を受講者の管理画面上に表示させるという仕組み。資料1の23ページで例えると、8桁のランダムに表示された番号と、管理者の方が設定したパスワードが合致すると1つの部屋の状態になる。受講者は「受講者の方はこちら」という項目を選択し、管理者から教えられたIDとパスワード入力することによって紐づけられる。学籍、社員番号などの項目については、研修ご担当者の方にお任せする。なお、識別子を入れることで個人情報に紐づけることは、このシステム上ではできない仕様となっている。担当者の方が分かるように1番から40番などに割り振っていただき、管理画面で紐付いたものがデータとして残り、CSVでダウンロードできるという仕組みになっている。

発言者	内容
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーム ID が研修を行う各事業所単位で必要に応じた配番をして、そのコードを使うことで受講状況の管理ができ、従業員が割り当てられたコードをそのまま使用することを想定して管理するというイメージでよいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのご認識でお間違いない。また詳細のマニュアルなどができ次第、別途ご説明をさせていただきます。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ では続いて田中委員からのご質問を伺う。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に研修を行う各職場窓口の責任者にご説明をいただけるような資料は別途ご用意いただけるという認識でよいか。本分科会でのご説明でも大枠は理解できたが、実際の管理者、受講者が利用する画面の詳細フローのイメージが湧かない。また管理者から職場ごとに 50 人程の職員に依頼をしていく形となるが、その際、依頼する具体的な内容は別途ご用意いただけるという認識でよいか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田中委員から、事業者として、実際に職場で利用していただく際の管理者の方向けのご説明の資料についてのご質問であった、事務局いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在作成中であるが、受講者向けと管理者向けのマニュアルをご用意する。そのマニュアルを基に説明会などを実施する予定であり、研修担当者様にご参加いただき、その際、ご説明させてもらう。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 承知した。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ では続いて阿部委員からのご質問を伺う。
阿部委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画の長さ、アプリの枚数などは丁度よい。これ以上長くなると受講者が飽きてしまうことも懸念される。意見としては、画面の文字の大きさが気になる。特に 21 ページなどの 188 (いやや) の画面では、「答え」と「説明書き」の文字の大きさが似ているが、「答え」の方を大きくするといった工夫が必要。また、動画やアプリの説明書きが長くなると見えづらい。例えば、外貨建ての説明は複雑であるため、長くなってしまっているが、実証後の意見次第では修正の必要が出てくると思っている。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 画面の文字の大きさ、答えと説明のメリハリについてご意見をいただいた。私としても文字が多過ぎるのではないかと思うが、事務局いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の皆様からは、「説明が足りない」というご意見と「説明が多い」というご意見をいただいている。阿部委員のご意見のとおり、

発言者	内容
坂倉座長	<p>実証で検証していきたい。また、委員の皆様にも再度ご確認いただき、ご知見を賜りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 動画、アプリは高校生と共通である。企業や高校での実証を並行して行うため、そこでのご意見も踏まえて、今後、修正をすることになると思う。 委員の皆様、何か意見はあるか。
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> 長さ、テンポ共に分かりやすく良い。 意見としては、例えば資料1の15ページに1連の学習のフルセットのような形で記載があるが、常にフルセットの形で学習をしないとイケないのか。時間を割けない方にはどこかをセレクトして使用しても、有効に機能することを考えているのか。 また様々な端末で見る可能性があることを想定すると、文字の大きさに関しても、机上のパソコンで見る場合と、タブレットやスマートフォンで見る場合とは違ってくる。ネット上の画面であれば文字の大きさは調整できたり。むしろ「こういった画面の中でのレイアウト構成か」ということで見やすさが変わってくると思う。ただ、パソコン、タブレット、スマートフォンでは画面の見え方が同じではないため、合わせるのが難しい。ホームページなどでは、パソコン用、スマホ用に分けたレイアウトにするが、今回はどのようにしていただけるのか。 <p>説明文は、私も幾つか意見を記載しているが、説明不足だと思えば文字数が増え、結果、読まれなくなってしまうというジレンマに陥る。最終的に、誤解を与えない情報の書き方が1つの基準だと思う。</p>
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 坪田委員から3点ご質問いただいた。 1点目は資料1 P.15のeラーニングは、全てフルセットでないといけないのか。 2点目はパソコン、タブレット、スマートフォンなど各端末への対応の問題。 3点目は文字が多い、少ないによる説明過不足の問題。 以上のご質問について、事務局いかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> eラーニングのテーマを選択することに関しては、自由に選択することができ、正解不正解もテーマごとに結果が表示される仕様となっている。企業様からは、まとまった時間の確保が難しいというご意見を事前に伺っている。そのため、表示されているテーマの中から、講師の方に選択していただくこととなる。 パソコンに表示するか、タブレットに表示するかという点については、当初から、スマートフォンやタブレットなどの新しい機器で、すぐ勉強できるようにという観点から開発を進めている。ただ、スマートフォンなどの場合、パソコンよりも中断・再開が発生しやすいと想定されるため、飽きにくい教材制作というのを念頭に、デザ

発言者	内容
坂倉座長	<p>インについてはスマートフォン、タブレットを中心に制作し、パソコンでも表示できるという仕様になっている。 実証の中で文字の大きさ、説明文の量などは委員の皆様のご意見をいただきながら検討し、より良いものに仕上げたい。 また、説明文については、偏った情報にならないように確認し、学習内容のベースが分かる状態にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局に確認であるが、坪田委員からのご質問1点目のeラーニングのテーマはセットでなく自由に選択できる、加えて動画やアプリについてはそれぞれ単独で、eラーニングとは別に学べるという認識でよいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 企業、高校の皆様が、eラーニング、動画を単体で利用したいということであれば、Webポータルサイト上のページに全ての動画を載せる予定であるため、そちらを利用し学ぶことが可能である。既に、社内にeラーニングシステムを持っており、外部にアクセスせず自前でコンテンツ教材をダウンロードし、社員の勉強に利用することが可能な企業様もある。インターネット上で使えるもの、かつ、各コンテンツがダウンロードできる教材が必要だと考えている。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 教材の利用方法に柔軟性があるということは、田中委員からご質問にあった、各職場担当者向けへの説明書にきちんと記載していただくことが重要である。 では続いて阪東委員からのご質問を伺う。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> 1点目は、管理機能について、常に同じ端末で利用することを想定されていると思うが、先ほど事務局の話では自分の端末からでもアクセスできるとのことであった。CSVと社員番号セットで覚えさせておけば、どの端末からでもアクセスできると思うが、そういう仕様には考えてないのか。 2点目として、「契約のしやすさ」の話があったが、クイズの内容は基礎内容の理解に関係している。騙されやすさといった心理的なものを測っているわけではないと思われるため、「契約のしやすさクイズ」と記載すると誤解があるのではないかと。 3点目として、「意思決定の失敗」は若年層にはあるが、中高年にはいらないのかと疑問である。中高年になってもデジタルプラットフォームは使用する、これを外すのであれば、理由をお伺いしたい。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 阪東委員から3点ご質問いただいた。 1点目は管理機能で、ユーザは同じ端末からの利用を想定しているが、違う端末でログインしたい場合はどうするのか。 2点目がテーマ「契約のしやすさ」で、クイズの内容が契約のしやすさというよりは、騙されやすいというようなクイズの内容になっているのではないかと。

発言者	内容
事務局	<p>3点目が e ラーニングの「意思決定の失敗」は、中高年も必要ではないか。</p> <p>以上のご質問について、事務局いかがか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 1点目の管理機能について、管理者がまずルーム ID とパスワードを発行する。このルーム ID とパスワード、及び研修担当者などから指示されたそれに紐づく番号があると受講者の方ほどの端末からでもログインが可能である。紐づく番号はデータが集まった際にソートできるようにするためのものであり、個人を識別しているわけではない。ただ、共通で使用しているパソコン、タブレットなどは識別ができないため、退出するときはログアウトしていただく必要がある。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> 5つのテーマを1回の研修で行う想定であればそれでよいが、ルーム ID を90日間置いてあり、特定のテーマを数回に分けて行う可能性もあるのであれば、現状の仕様だと復習をすることが出来ないのではないか。例えばテーマ1, 2は11月3日に行い、3は11月7日に行う場合、個人貸与など、端末を指定しているのであれば現状の仕様でよいと思うが、そうでない運用をされる場合は難しいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 各テーマ全ての履歴をまとめていくことはシステムの都合上、想定していない。もしそういった運用をされる場合は、1, 2のテーマはこちらのルーム、3のテーマはこちらのルームとテーマごとに分けて入っていただき、管理機能からファイルの出力ができるため、それらを突合していただくこととなる。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> 「ルーム ID の下にユーザごとの ID を表示することはできない」ということでよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報への紐づけになるので、保管が難しく、現状では対応できない。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> 管理者側が社員番号ごとに ID とパスワードを振り、csv だけで管理することも可能と思うが、それも難しいということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今回の方針として利便性の観点から、機能を重くしないようにしている。ID 管理、ファイル管理などデータベース上に何かを持つということをせず、軽い機能の中でということになっている。個人 ID で管理画面を充実させると重い機能になってしまう。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> 承知した。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 2点目の「契約のしやすさ」については、今後、名称を変更する予定である。 <p>現在、全体の動画やアプリも含め、名称が適切かどうか確認検証しているところである。既に、「契約のしやすさ」についても成年向</p>

発言者	内容
阪東委員	<p>けでは「基礎知識」という名称に置き換えないと合わない、というご意見を承っている。他にも名称が変わるコンテンツが出てくる可能性があるため、併せてご確認をお願いしたい。</p> <p>中高年向けの教材についても、資料を付け加えた方がよいという意見も出てくると想定している。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ では3点目の「意思決定の失敗」も中高年向けに入れた方がよい意見がある場合、対応していただけるという認識でよいか。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ この場で「対応する」と確約はできない。再検討が必要だという認識はさせていただいた。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検討いただければと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「契約のしやすさ」のクイズのところは阪東委員のおっしゃる通りで、タイトルと中身が一致していないところもあり、成人としては、騙されないようにということに意識を置いたクイズの方がいいと思う。 ・ やはりタイトルを変えていただくというのが良いのではないか。この部分はeラーニングに入っているものではなく単独のアプリのもので、高校生向けと成人向けで共通の内容になっているが、成人向けだけタイトルを変えていただくということも可能だと思う。こちらは検討いただければと思うが、事務局はよろしいか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 座長のおっしゃるとおり、タイトルを変えることについては、検討する。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪東委員のおっしゃっていた、「意思決定の失敗」という若年層向けの動画が中高年層には入っていないということだが、元々、eラーニングは企業向けに30分以内で作成するというものであった。テーマは5つで、若年層、中高年層両方に必ず入れたいテーマ、例えば消費生活センターへの相談の仕方などと、若年層、中高年層それぞれの年代に合ったテーマで、それぞれ優先順位を決めて当てはめた。若年層には「意思決定の失敗」を、中高年層は「50代以降の経済管理」を入れた。 ・ 確かに、中高年層向け教材にも「意思決定の失敗」が必要だと思う。eラーニングに入れなくても、ここのテーマがアプリや動画でフォローできるものになっているのか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在はその構成にはなっていない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ その部分を動画やアプリ単独で学べるものはないということか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご認識の通り。

発言者	内容
立石委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中高年層には「意思決定の失敗」ではなく、「50 代以降の経済管理」を入れていることについて、他の委員の先生方はいかがか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見る人は見るかもしれないが、「50 代以降の経済管理」は、内容的に、実際に失敗していても手遅れである気がする。意思決定の失敗自体は、例えば「クーリング・オフ」で取り返すなどの方法があると思うが、50 代以降になり「経済管理」について学び、どの程度役立つのかという気がした。少し微妙なテーマだと思った。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的に「50 代以降の経済管理」というのはどのような内容になっているのか？ ・ 「意思決定の失敗」に関して、「デジタルプラットフォームの仕組みや注意点」「トラブルにあったときの対応」という動画を作成している。e ラーニングには時間的な配分等もあり、組み込んではいないが、年代問わずこちらの動画については、全て単体で学んでいただくことができる。
立石委員	<p>「50 代以降の経済管理」の内容は、「お金の管理」というタイトルの動画になっている。例えば収支予算の算出や多重債務に遭ってしまうケースで、それに対してどのように気を付ければ良いのかという内容になっている。こちらに関しては本分科会の委員の皆様には 1 回目に照会をさせていただいた教材である。</p>
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ むしろ逆だと思っている。カード類に関して多重債務となるのは、若い方が圧倒的に多く、デジタルプラットフォームについて詳しく知らないのは 50 代以上である。 もちろん若年層にもデジタルプラットフォームについて、考えているより難しいものだという話は必要だと思うが、喫緊の課題としては、どちらかという逆である。若年層の方が多重債務に陥る可能性が圧倒的に高く、現実にもそのようなことも起きている。プラットフォームのことは高校生あるいは大学生の方が分かっている。分かっているのはむしろ成年の方で、Amazon でレコメンドが来ると片っ端から買ってしまうという話はよく聞く。
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今のテーマは若年層が「意思決定の失敗」、中高年層が「50 代以降の経済（お金の管理）」になっているが、これを逆にした方がいいのではないかというご意見をいただいた。現時点では、第 1 回目の分科会にて、このストーリーでということで決定し、ここまで準備してきたが、実証してみても変更した方が良いのではというご意見が出てくることもあると思う。 <p>現時点では、できる・できないは置いておいて、ご意見はいただきたい。他の委員の皆様方はいかがか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私も 1・2・3・4 と分けて、両方を同じ数にするとして、真ん中を世代別に分けるとしたら、本来は両方必要だと思った。動画やアプ

発言者	内容
坂倉座長	<p>リ、eラーニングを拝見して、手軽に簡単にとという学習だと、まず1番は気づきを与えるということだと思う。気づきを与えるという点では、今のご意見と同じで、現在、若い方にかなり多くの多重債務の問題が起こっており、今後もさらにキャッシュレス化が進むとされている中で、むしろその方が重要ではないか。</p> <p>一方、現場でも、高齢、中高年の方からもこのデジタル関連の相談は入ってきている。そうすると、スマホやタブレットで研修を受ける時には、まずこれを知っていただくことが重要なのではと思った。「多重債務やお金の管理が重要である」ということは、50歳ぐらいになると、「分かってはいるけれどできない」ということが多いと思う。50歳代以降の方に経済管理の研修が必要ないということではないが、やはりデジタル関係の知識というのは、今後もっと必要になってくるのではないか。</p>
坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> 坪田委員も、若年層と中高年層で逆にした方がいいのではないかというご意見だった。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 限られた短い時間だと、「どちらか一方しか選べない」となれば、やはり逆もありだと思う。ただ、この研修をどういうシチュエーションでやっていくかっていうことも踏まえた上で考える必要があると思った。
坂田委員	<ul style="list-style-type: none"> ではこの点について、企業に所属していらっしゃる委員の方のご意見はいかがか。 私も前回から検討の流れのなかであまり違和感なく、「この置き方で良い」と感じていた。しかし、先程のご意見を拝聴していると、聞けば聞くほど「なるほど」というように考えるところもある。多重債務の問題に関して、中高年層はどこまできちんとできているかということだと思う。与える影響の大きさがあまり分からずしてトラブルになっている。どちらかというとなら若年層の方が問題であり、中高年層に比べて、トラブルになるケースも多く、深刻になるという気がする。
坂倉座長	<p>もう一方のデジタル関連の方は、若年層にとっては違和感ない内容なので、そういう意味では、大きく取り上げなくても良いかもしれない。重要な項目なので、どちらを優先するかということでは、若年層と中高年層のテーマを逆にしても良いと感じている。しかし、若いから故に深く考えずに判断してしまう消費者でもあると感じている。そのため、ここの部分も入れたほうが良いと感じており、大変悩ましい。是非とも両方研修できないかというのが率直な意見である。</p>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> 「お金の管理」は若い人に、それからデジタルプラットフォーム、「意思決定の失敗」が両方にとという意見だった。

発言者	内容
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私も最初の案で違和感なく感じていたが、今の話を聞くと、確かにそういう面もあるかと思った。しかし、このままでいいという方に1票である。デジタルプラットフォームも中高年の人も利用しているが、やはり若年層の方が多い。40、50代になると遅いというのはあるのかもしれないが、定年も見えてきた年代で、年金がもうすぐもらえるようになるということで、マネープランの研修をやるのは有意義である。40代と言ってもなかなか実感がなく、50代になってきて、ようやく定年後が見えてきて、考え出すであろう。逆ではいけないという意味ではないが、このままでいいと思う。 <p>それ以上に、実証を行うということを社内で論議して行く中で、とにかく短くしてほしいと言われている。この中から2つ選んだら10分ぐらいでできそうだという内容のテーマを、わかりやすく示してほしい、そうしないととても職場に依頼できないと言われている。eラーニングは、まとまってみんなで学習するのではなく、個別に自分の時間で勉強できるという点が良い。そのため、まとめて1時間や30分取るというのではなく、10分ほどが適度な時間なので、いろいろ入れたいという気持ちもよく分かるが、ご考慮いただいて全体設計をお願いしたい。</p>
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後半のご意見だが、現段階で全体の時間を短くするには、難しい。eラーニング自体は30分弱の長さにし、フルで学習しなくてもいいように選択可能にしている。今回はこれで進めさせていただきたい。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理解した。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若年層と中高年、両方ともデジタルプラットフォームに関するテーマにしたらどうなのか、という考えとは違うのか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それも一案かもしれない。「50代以降の経済管理」について少し拝見させてもらったが、やや帯に短し襷に長し、みたいな内容になってしまうかもしれない。そうすると、中高年層も若年層も一緒になってしまうので、それも1つの手かもしれない。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほどの田中委員のご意見で、セカンドライフや年金のこともあったが、今考えている動画の中では、あまり年金の話までは出てこない。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認識している。
阿部委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルプラットフォームに関するテーマを中高年層もやってもいいのではないかと思った。阿部委員はいかがか。 ・ 私も皆様のご意見を聞かせていただいて、足して2で割ったぐらいのものでいかがでしょうか、と思った。お金の問題に対しては、若年者でも50代以降の方でも相談はある。ただ、50代になると、

発言者	内容
坂倉座長 事務局	<p>高額になるということが多い。若年層はそんなにお金を持っていないがやはり被害には遭う。</p> <p>ただ、デジタルプラットフォームの仕組みなども若い子たちは知っているようで詳しくは知らないため、トラブルに遭っている。50代以降の人たちは、よく知らないまま使っている方もいらっしゃる。足して2で割ったぐらいのものがいいが、時間が長くなってしまふということが懸念事項である。</p>
坂倉座長 阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ おっしゃる通り。そもそも、今から変更というのは可能なのか。 ・ e ラーニングのことで補足をさせていただく。議論になっていた、「意思決定の失敗」と「50代以降の経済管理」の内容を例えば1本化する、入れ替えるといった対応であれば、基本的に制作側の方で内容自体を変える必要はないため、組み合わせの変更に対しては対応可能だと考えている。また、例えば5つのテーマで組んでいるが、これを1本化して「6つのテーマから好きなものを学んでください」といった形にすることもできる。それぞれのテーマの内容について、これから変更するというのは時間的に難しいが、そのようなことであれば対応可能である。
坂倉座長 阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理機能について一部補足があるので、再度私からお話をさせていただければと思う。 ・ 阪東委員はいかがか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局からあったように、基本はフルパッケージでやるものではないという理解で考えている。運用側の仕組みとして、このような運用があるという枠を提案するといいいのでは。現状では、コンテンツ自体は変えず、フルパッケージでないケースもあるという2解で進めていくということはいかがか。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 阪東委員のご提案は、構成は現状のままで、使い方として、「それぞれテーマをチョイスできるので、柔軟に対応してください」と、という意味で考えてよろしいか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ その通り。
阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうなると、e ラーニングのプログラムが今5つあるが、これを詰め込んで6つにして、その中から選んでいただくということではなく、原案の通りでということではよろしいか。 <p>もう一度確認するが、若年層は「意思決定の失敗」、中高年層は、「50代以降の経済管理」にしておく。しかしそれぞれ「意思決定の失敗」も「50代以降の経済管理」も動画やアプリでチョイスができるとことを補足案内するということで進めてよろしいか。</p>

発言者	内容
坂倉座長 坪田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生教材開発に関する有識者会議（親会）にも影響することでもあるし、全体の構成にも関わってくるので、今後の検討事項にしておいていただけたらどうか。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の先生方はいかがか。異論はあるか。 ・ 異論はない。結局のところ、現実的にはフルパッケージではなかなか難しいということであれば、チョイスできればいい。企業でもそれぞれ同じではないため、各社員の方にとって、どのような学習が必要かというのは違ってくる。業種によっても違う。例えば保険会社であれば、「50 代以降の経済管理」については、あえて学ばなくてもいいと思う。そういった理由で柔軟な対応が出来るという事が1番良い。
阪東委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのような意味でも、企業の管理者向けの説明のマニュアルでしっかり説明するということが重要になってくるかと思う。 <p>阪東委員、動画の件で先ほどご意見を、とおっしゃっていたが、いかがか。</p>
坂倉座長 阪東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ もしよければ管理機能のことで先にお話しただけたらと思う。 ・ 先ほど阪東委員からご意見をいただいた際の管理機能についてだが、企業の方が例えば、日にちを分けて各テーマを受講した際にはどうなるのかといったご質問があったかと思う。基本的に今回の管理機能は、ルーム ID を一度発行すると、そのルーム ID は今暫定だが 90 日間の有効期間がある。その 90 日間の間であれば同じルーム ID を使って何度も出入りが出来るような形になっている。同じ端末、同じブラウザで研修をしていただく場合は、退室をしていただかなければそのまま端末のブラウザの方に記憶する機能があるので、受講する方はどこまで受講したかという履歴が残った状態のまま翌日以降も研修を続けられるという形になっている。そのため、違う端末や、違うブラウザで新たに研修を続きから開始する場合は、再度同じルーム ID とパスワードを使ってルームに入り研修を継続していただく必要がある。また、同じ端末を複数の方で使って研修を行う場合は、個人の識別ができない形になるので、一度ルームから退出して、アカウントを入れ替えて受講していただく。そうすると、同じルーム内で1つの CSV ファイルに履歴が記録されるような形になる。管理者の方も1つの CSV ファイルで誰がいつ受講したかをまとめて確認できるような形となっている。 ・ それでは阪東委員いかがか。 ・ 基本的にはルームを開けていただいて、それぞれが社員番号などを入れて学習するのが運用しやすいというのは理解できている。一方で、社員番号の入力間違いや、いくつかユーザ側のミスでうまく受講履歴が取得できないなどのケースが起こりえるのではないかとい

発言者	内容
坂倉座長 阪東委員	<p>う懸念事項があったので、あらかじめ管理者側で把握しておいた方が良いのではないかと思った。いくつかリソースに制限があると思うので、その中で最大限ご考慮いただいた結果、このようになっているということであれば、私としては異論ないので、それで進めていただけたらと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 動画の方に移ってもよろしいか。 • はい。 • 先ほど見せていただいた動画では、意思決定の失敗だったら良いのだが、「定額になっているからアルバイトしていればいいじゃない」みたいな部分があったと思う。成年向けだと少し違和感があるのではないかと思っていた。 もしそのような意思決定の失敗の部分が若年層向けの話だけなら良いのだが、その点は確認をさせていただきたかった、というのがまず1つ目である。
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> • 2つ目が消費生活センターというテーマで、センターについての説明だと思うが、動画を見ただけだと何を説明したいのかが分からなかった。例えば、消費生活センターの機能みたいなものが最初にある、それに関する内容が続いて出てくるといったことをしないと、そのメインテーマと伝えたい内容とが少しずれてしまうのではないか。 動画の構成なので、最初にタイトルが出て、それについて説明を進めていくといった流れの方がユーザビリティは良いのではないか。これらの点について、どのようにお考えなのかをお聞かせいただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 2点ご質問をいただいている。 成年向けの教材で「アルバイト」という言葉が出てくるのは、若年層に対しては良いかもしれないが中高年層にはどうなのか、消費生活センターの内容とテーマとで、伝えたいことが少し合っていないのではないかという事だが、事務局はいかがか。 • 高校生向け教材と成年向け教材を一緒に使用するということがまず大前提になっている。そのため、どちらかに寄せるか、どこに合わせしていくかは、「両方で使えるもの」ということが前提である。ぜひそれに対するご意見もいただけたら全体の構成を考慮したいと思っている。また、すでに委員の皆様方からいくつかご意見をいただいて、一旦仕上がっているものなので、まずは現状の教材をご覧いただき、今後実証を経て、全体の見直しを図っていくことを想定している。 <p>消費者生活センターの動画については、本日見ていただいたのは5分あるうちの最初の1分程度で、後ろにある解説部分を割愛したも</p>

発言者	内容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> アンケート項目については、今後、案についてご意見を伺う予定だと伺っているが、事務局いかがか。 まずはコンテンツを確認していただきたい。そのコンテンツの内容によってアンケート内容もブラッシュアップされると思っている。アンケート内容については今後照会させていただく。
4. 今後のスケジュールについて	
坂倉座長	<p>続いて、「今後のスケジュール」について事務局より説明をお願いする。</p> <p>■資料2 令和3年度有識者会議 分科会スケジュールについて事務局より説明。</p>
5. 閉会	
坂倉座長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議題はこれにてすべて終了である。全体を通じて何かご意見・ご質問があれば、あるいは最後にどうしてもこれは言っておきたいということがあれば、お伺いしたいが、いかがか。 <p>【意見・質問なし】</p> <p>特にないようなので、これにて議論は終了する。それでは、進行を事務局にお返りする。</p>
事務局	<p>委員の皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>次回の有識者会議・分科会の開催につきましては、後日改めてご連絡させていただく。</p> <p>以上で、第2回 消費者保護のための啓発用デジタル教材開発に向けた有識者会議・成年向け教材開発分科会を閉会する。</p> <p>ありがとうございました。</p>

以上